

第3回 沖縄・辺野古の現場からの報告会のお知らせ

地球温暖化の中、暑い日々、記録的大雨をもたらした19号をはじめ台風も何度か発生し、不順な気候が続きましたが、昼より夜の方が長くなり、秋らしい季節となりました。

名護市に移住して、辺野古の浜の「座り込みテント村」を守り続け、「ヤマヒデの沖縄便り」(ブログ)を発信されている山本英夫さんを、2015年11月5日、2017年2月2日にひき続いて、来たる12月5日(木)、デンマーク牧場にお迎えして、講演・討論会を開催いたします。

平日、しかも夜の「デンマーク牧場」ですが、どうぞ皆様で誘い合いながら、ご参集下さい。

日時： 2019年 12月 5日(木) 18時半より20時半頃まで

場所： デンマーク牧場 まきばの家

内容： 講演「不戦を生きる沖縄へ 日本へ、漕ぎ出すのは今」

山本 英夫 氏 フォトグラファー(自然写真・報道写真)

討論会

【 山本英夫さんのプロフィール 】

1951年東京生まれ、世田谷育ち。67年千葉県江戸川河口の干潟・野鳥の渡来生息地を守る運動から社会問題に首を突っ込み、同時期から写真を始める。89年5月に基地の島沖縄に通い始める。辺野古とのつきあいは、97年以来。04年の座わりこみから頻りに通う。11年以来、与那国島、石垣島、宮古島に通いだす。12年13年のオスプレイ導入阻止闘争の撮影を経て、13年10月名護市に居を移し、毎日「ヤマヒデの沖縄便り」(ブログ)を発信している。これまで写真展、スライド&トークなどで沖縄報告を行っている。

【 講演の概要 】 (山本さんに記して頂きました)

はじめに：

昨年12月8日、私は長野県上伊那地区の「第35回 永久に不戦を誓うつどい」に講師としてお招きいただきました。多くの若者を含む300名が集まり、とても勇気づけられました。

反戦・非戦・不戦：

私が若者だった60年代から70年代初頭、ベトナム反戦運動が活発でした。米軍の蛮行は顕著であり、徹底抗戦するベトナム民族解放戦線の正義も明らかでした。反戦の呼びかけに万余の人々が参加していました。しかし2003年から始まった米国のイラク戦争を迎えると、正義を体現する主体が見えず、なぜ反戦かあやふやでした。「非戦」なる言葉が生み出されました。私は「不戦」だと考えます。戦争を誘い込む差別と向き合い、より主体的だと思うからです。

新基地建設は「島嶼防衛」の前進基地建設

沖縄は1972年5月15日以降も戦争の出撃拠点にされてきました。それどころか「島嶼防衛(とうしょぼうえい)」をお題目にした金儲けに踊らされ、対中包囲網の前進基地化が進められています。中距離ミサイル廃棄条約が破棄され軍拡が再び 意気を吹き返していきます。安倍政権は再び沖縄・琉球諸島を戦場に差し出そうとしています。私は「米国(日本・中国・〇〇国)ファースト」は、人類の未来を破滅に追い込むと思います。琉球諸島の運命は日本全体へ、アジア全域に及ぶでしょう。

沖縄の覚悟

普天間基地を抱えている宜野湾市議会が辺野古移転促進決議をあげてしまいました。沖縄の中の亀裂が深められようとしています。沖縄の人々は、74年前に沖縄戦の渦中に叩き込まれました。そこから『命どう宝』を訴えてきたのです。今、沖縄の民意が、覚悟が問われています。

不戦に生きる

基地の島を「観光アイランド」の陰に隠してはなりません。私の希望は「不戦」。これを歴史から学び、自分自身を問い返し、不戦に生きる沖縄の一端を担ぎたい。皆さんもその第一歩を踏み出しませんか。

デンマーク牧場福祉会 こひつじ診療所

武井 陽一

まきばの家

小久保 秀樹

浜松市憲法を守る会

水戸 潔

問い合わせ先 こひつじ診療所 ☎ 0538-23-0660 まきばの家 ☎ 0538-23-0770